

開港から150年 往時の息吹が残る白山神社

地主神・産土神として、また新潟開拓の守護神・総鎮守として、町の変遷を見守り続けてきた白山さま。
拝殿や境内には、江戸時代から繁栄を遂げてきた湊町新潟の歴史が今も色濃く息づいております。



おおふなえま 大船絵馬 御城米積込風景
ごしようまいつみこみふうけい
描いた人: 新潟の画家 井上文昌 願主: 水原の豪商 市島次郎吉正光
越後の年貢米輸送を請け負っていた水原の水原の豪商市島家の仕事が描かれています。

◎嘉永5年(1852)奉納 横3m60cm 縦1m90cm 昭和44年(1969)新潟県有形民俗文化財指定

湊町新潟を象徴する名所・白山神社で、150年前の風景に会う

新潟湊が開港した1869年以前の北前船往來の様子を描いたこの絵馬は、廻船差配人・市島次郎吉正光が年貢米の輸送の安全を祈り奉納したものです。新潟湊での廻米積み込みの様子だけでなく、江戸・大坂で降ろすまでの、廻米の海上輸送の始まりと終わりを描いた絵馬です。廻米差配人として市島が請け負った業務である廻米輸送の成功を祈願し、感謝して奉納されました。当時の新潟湊と日本海開運の歴史を知ることができる貴重な資料です。

北前船は江戸時代中期から明治まで、北海道から新潟、大坂へと、日本の西側の日本海～瀬戸内海を航海した木造帆船。新潟では「廻船(かいせん)」「弁才船(べざいせん)」と呼ばれ、船頭が湊で買った商品を他の湊へ運んで売り、商売を行っていました。一年の航海で千両もの利益を得ることもできたといわれますが、難破することも多くありました。様々な入荷物は、信濃川や阿賀野川を通じて越後各地や会津へと川船で運ばれ、新潟には塩・砂糖・紙・鉄・綿などが入ってきました。鉄は三条に運ばれ製品となり、日常の生活に欠かせない塩や砂糖は、会津の方まで流通したとされます。新潟からは米や穀物が多く運ばれ、新潟湊は越後各地の年貢米を運び出す湊として、重要な役割を負っていました。

新潟町を領有する長岡藩だけでなく、信濃川・阿賀野川水系に領地を持つ諸藩は、村々から収納した年貢米を、川や潟を経て船で新潟町に運び、蔵に収めて、江戸や大坂へと輸送しました。県内の各湊から新潟に物を集める船や、新潟に運ばれた商品を中小の湊へ運ぶ船などで、新潟町には人も物も集まり、大変賑わっていました。「管窺武鑑」「北國太平記」といった文献によると、天正13年(1585)、白山島には上杉景勝と新発田重家が戦った白山城(新潟城)があり、城内に白山大神をおまつりしていたという記録が残っています。戦国時代から江戸時代にかけて、新潟では白山島と白山城(白山神社)の中だけしか商売が許されておらずでした。年貢米は白山神社境内の蔵に納められておりました。新潟湊に届いた米や商品は、信濃川から直接新潟町に入ることができる大きな白山堀(一番堀)から運んでおりました。白山城の中心には白山妙理大権現(白山さま)がまつられ、境内は新潟湊に荷揚げされた全国の物資・物産が集まり、商売の店と商人であふれて大変賑わっていたそうです。白山さまは、当時より商売繁盛の神として、新潟の方々より広く崇敬を集めておりました。



積み込み作業の様子 大船絵馬(複製)



白山神社拝殿にある大船絵馬
お声かけいただければ靴を脱いで上がっていただけます。
写真撮影も可能です。

海上交通の要衝 湊町新潟の守り神

新潟を見守り続け、開港当時の風情、歴史を今に伝える白山神社。
文明開化の新潟で最も賑わい、厚く信仰を集めた癒しの地。

北前船で運ばれてきた石の鳥居



尾道の石工の名が刻まれている鳥居と備前焼の狛犬

白山神社の参道には「奉 為海上安全 尾道石工山城屋惣八作」[献 安政三年丙辰六月日 宿近江屋利右衛門客船中]と刻まれた石の鳥居があります。当時、商品を輸送する海の船は「廻船」と呼ばれ、「廻船問屋」という商人を窓口として、積み荷の売買が行われていました。廻船問屋はお得意様の廻船を「客船」と呼びました。「客船」とは、近江屋が中心となって得意先の廻船がお金を出し合うことで、海上安全を願って鳥居を奉納しました。船は荷が軽いままでは安定しないので、石製品を積んで運ぶことが多くありました。新潟には、岡山や島根等、全国各地を回った船によって運ばれた瀬戸内の石製品が、今も多く残っています。この鳥居は、廻船問屋近江屋の客となった船主や船頭が、海上安全を願いはるばる広島県尾道から運んで寄進したのでしょう。鳥居の前には備前焼の狛犬があり、出雲型の狛犬も奉納されています。



白山神社拝殿

白山神社、白山堀と古町芸妓

江戸時代には白山神社境内に商人の蔵があり、白山堀(後の一番堀)から米や商品を運んでいました。神社の祭礼はとても賑わい、芸妓たちもおまわりをしながら衣裳を競い合ったといいます。明治初期の絵画には、春祭に参拝する古町芸妓の大変賑わった様子と共に、新潟湊も描かれています。



←一人前の芸者になると白山神社に参拝し、鉄漿(おはぐる)をつけ餅を配ってお祝いをした。白山堀(一番堀)をはさんで立ち並ぶ米を納める蔵や、米を積んだ船も描かれています。

越後新潟湊真景十六興
全盛鎮祝横街米市 明治初年



白山神社前にあった白山橋と芸妓(新潟名所絵はがき)



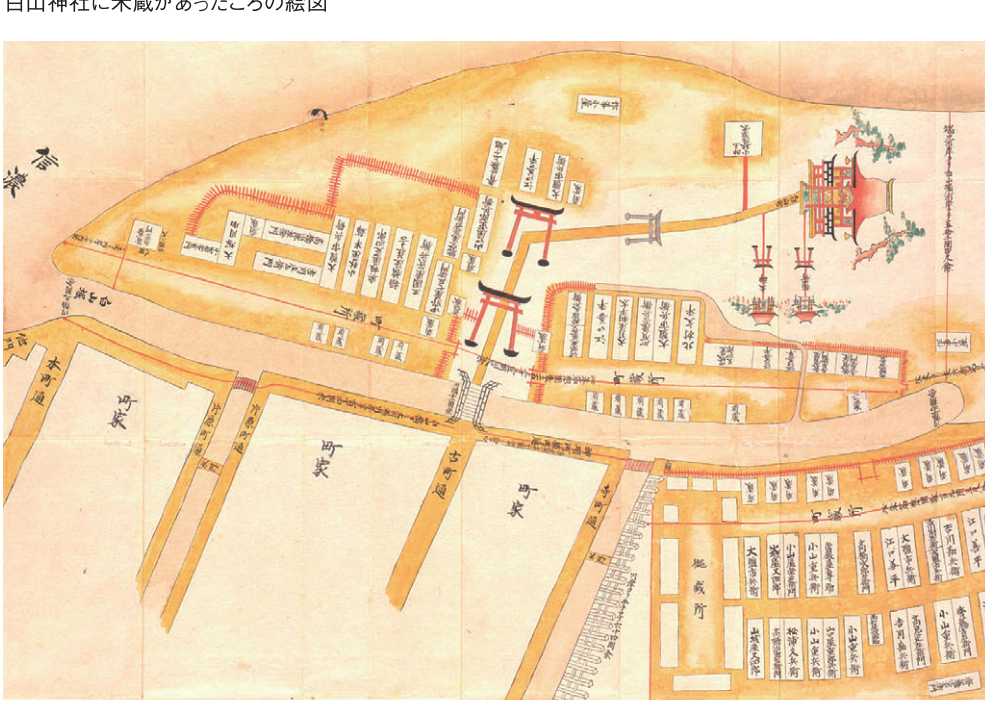
白山堀(一番堀)の荷船 明治初期
手前は荷船、右に鳥蔵が見える。

新潟町はじまりの地 白山島 湊町の発展を見守り続けた白山神社



白山神社に米蔵があったころの絵図

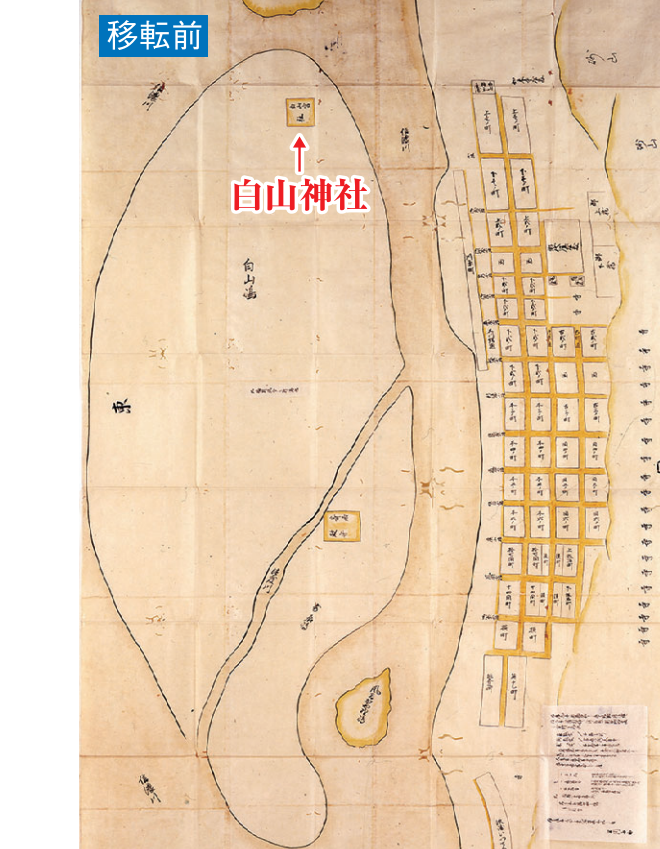
新潟町は信濃川や阿賀野川が運ぶ土砂により、地形を変化させておりました。白山神社の鎮座する白山島は信濃川の中州にあり、白山神社は、江戸時代までは信濃川から日本海へ出る新潟湊の先端に位置しておりました。海上の目印となり、海上交通の要衝の守り神、大漁満足の神様として、また、堀が張り巡らされた湊町新潟の要所を守り、水害や事故から守ってくださる水的神様としても、広く厚い信仰を集めておりました。江戸時代以前より、新潟では白山さまに海上の安全、交通安全、旅の安全を祈って絵馬を書く風習があり、現在でも残っています。



新潟町横町蔵屋敷 寛政7(1795)年/安政6(1859)年写

安政5年(1858)日米修好通商条約で開港場のひとつに選ばれた新潟。開港にあたり、新潟町には県庁も置かれ、外国人も多く集まるようになります。戊辰戦争後の明治5年(1872)に最初の新潟県令(知事)・楠本正隆は、白山神社の地区を文明開花を象徴する建物の並ぶ地区と定め、医学学校・新潟学校・師範学校などの洋風な建物を建てました。現在も大学病院や高校が残っており、白山神社境内にあった湊町や小さな神社は取り壊され、その後、花壇や樹木を配した日本最初の都市公園、新潟遊園(白山公園)が開園しました。

←町蔵所の絵図。白山神社の境内地内蔵は町蔵と呼ばれ、少なくとも江戸時代前期から建っており、享保期(1710年代頃)には長さ18間(約32.72メートル)、横4間半(8.18メートル)の蔵が16棟あった。



古新潟之絵図 年不詳
新潟町が現在の旭町・大畑方面にあったころの街並み
現在の古町地区につながる新潟町は、明暦年間(1655)から白山島・寄居島へ移転して町割されたものであると考えられている。



新潟町絵図 文政6年(1823)
堀と通りで区画された新潟町
信濃川の流れが変化し、町が川岸から遠のき湊としての機能しなくなったことから、町は場所を変えて再構築された。